

「タックル」 それから

戦前、Tackle の日本語訳を漢字で「挺倒」と書いた時代がありました。温故知新。

1973年 RFU から発行された“BETTER RUGBY”で Tackle の Teaching Summary では‘Try to ensure they are with players their own size and weight’とタックルの練習は同じような体格、体重の者同士で練習することを教示しています。このことは初心者だけでなくすべてのレベルにおいて重要な留意点です。

タックルの説明の前に、競技規則の一文を見てみましょう。

日本語	英語
第 15 条タックル	Law 15 Tackle: Ball Carrier Brought to Ground
定義	Definitions
ボールキャリアーが、一人または複数の相手プレーヤーに捕まり地面に倒された場合に、タックルが成立する。	A tackle occurs when the ball carrier is held by one or more opponents and is brought to ground.

<http://laws.worldrugby.org/?law=15&language=EN> より

タックルに於ける双方の動きをシミュレーションしていくとタックラーがボールを持って走っている相手を捕まえる時の技能と力の強さがその後のボール展開に大きく影響することが分かります。

プレーヤーは強さが要求され競技規則で許されていない衝突 (collision) や荒々しい衝き (hustle) が強調されている現状は反省されなくてはなりません。

正しいタックルは恐怖感を持たないで相手を捕まえることの理解から始まるのです。

WORLDRUGBY 発行の競技規則の中にラグビー憲章 (playing charter) には「競技規則の原則」という項目があります。その中に次のようにプレーヤーの義務として上げられています。これは指導者にとっても責務であることは言うまでもありません。ラグビー憲章の一言一句は議論され精選された中味の濃いものです。

日本語	英語
ラグビー憲章	Playing Charter
競技規則の原則	Principles of the Laws
競技規則は以下の原則を拠り所としている。	The principles upon which the Laws of the Game are based are:
すべての人にとってのスポーツ	A SPORT FOR ALL
競技規則は、異なった体格、スキル、性、そして年齢のプレーヤーに、それぞれの能力のレベルにおいて、コントロールされた競争的で楽しい環境において参加できる機会を提供する。競技規則に関する完全な知識と理解を有することは、ラグビーをプレーするすべてのプレーヤーにとっての義務である。	The Laws provide players of different physiques, skills, genders and ages with the opportunity to participate at their levels of ability in a controlled, competitive and enjoyable environment. It is incumbent upon all who play Rugby to have a thorough knowledge and understanding of the Laws of the Game.
独自性の維持	MAINTAINING THE IDENTITY
競技規則は、スクラム、ラインアウト、モール、ラック、そしてリスタートを通じて、ラグビーの持つ他にはない特徴が維持されることを保証する。また、ボール争奪と継続に関連する鍵となる特徴、すなわち後方へのパス、攻撃的なタックルも同様である。	The Laws ensure that Rugby’s distinctive features are maintained through scrums, lineouts, mauls, rucks, kick-offs and re-starts. Also the key features relating to contest and continuity – the backward pass, the offensive tackle.

<http://laws.worldrugby.org/index.php?charter=3&language=EN> より

競技規則に関する「完全な知識と理解」はプレーヤーの義務です。そしてタックルは防御プレーですが身体を接触するプレーの中での (aggressive) 反転攻撃につながるタックルの理解と実践が必須条件です。それはラグビーの特徴の維持を保証するものです。

競技規則の序文に次のように書かれています。

日本語	英語
序文	Foreword
ラグビーフットボール競技は、身体接触を伴うスポーツである。身体接触を伴うスポーツには本来危険が伴う。プレーヤーは、競技規則を遵守し、自分自身と他のプレーヤーの安全に留意することが特に重要である。	Rugby Union is a sport which involves physical contact. Any sport involving physical contact has inherent dangers. It is very important that players play the Game in accordance with the Laws of the Game and be mindful of the safety of themselves and others.
プレーヤーは、責任を持って、ラグビーフットボールをプレーできるように身体的かつ技術的に準備し、競技規則を遵守し、安全に参加できるようにしなければならない。	It is the responsibility of players to ensure that they are physically and technically prepared in a manner which enables them to play the Game, comply with the Laws of the Game and participate in accordance with safe practices.
ラグビーフットボールの指導者は、プレーヤーが競技規則を遵守し安全にプレーできるよう責任を持って育成しなければならない。	It is the responsibility of those who coach or teach the Game to ensure that players are prepared in a manner which ensures compliance with the Laws of the Game and in accordance with safe practices.

<http://laws.worldrugby.org/?domain=1> より

攻撃的なタックルとはボールキャリアーに激しく体当たりして打ち負かすタックルを言うものではありません。「自分自身と他のプレーヤーの安全に留意」することが競技規則遵守の要件なのです。そのために身体的かつ技術的準備をしなければなりません。

競技規則は危険なタックルを禁止しています。復習してみましょう。

日本語	英語
第 10 条 不正なプレー	Law 10 Foul Play
10.4 危険なプレー、不行跡	10.4 DANGEROUS PLAY AND MISCONDUCT
(e) 危険なタックル ：いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーに早すぎるタックル、遅すぎるタックル、または危険なタックルをしてはならない。 罰：ペナルティキック	(e) Dangerous tackling. A player must not tackle an opponent early, late or dangerously. Sanction: Penalty kick
いずれのプレーヤーも、相手側プレーヤーの肩の線より上へタックル、あるいはタックルしようとすることは、たとえタックルが肩の線より下から入ったとしても、してはならない。相手の頸部、または頭部へのタックルは危険なプレーである。 罰：ペナルティキック	A player must not tackle (or try to tackle) an opponent above the line of the shoulders even if the tackle starts below the line of the shoulders. A tackle around the opponent's neck or head is dangerous play. Sanction: Penalty kick
スティフアームタックルは危険なプレーである。 罰：ペナルティキック	A 'stiff-arm tackle' is dangerous play. A player makes a stiff-arm tackle when using a stiff-arm to strike an opponent. Sanction: Penalty kick
ボールを持っていないプレーヤーに対しプレーすることは、危険なプレーである。 罰：ペナルティキック	Playing a player without the ball is dangerous play. Sanction: Penalty kick
いずれのプレーヤーも、地面から両足が離れている相手側プレーヤーをタックルしてはならない。 罰：ペナルティキック	A player must not tackle an opponent whose feet are off the ground. Sanction: Penalty kick

<http://laws.worldrugby.org/?law=10.4> より

日本語	英語
<p>第 10 条 不正なプレー</p> <p>10.4 危険なプレー、不行跡</p> <p>(i) ジャンプしているプレーヤーへのタックル: いずれのプレーヤーも、ラインアウトで、または空中のボールをとるためにジャンプしている相手側のプレーヤーにタックルしたり、片足または両足をはらったり、押ししたり、引っぱってはならない。 罰: ペナルティキック</p>	<p>Law 10 Foul Play</p> <p>10.4 DANGEROUS PLAY AND MISCONDUCT</p> <p>(i) Tackling the jumper in the air. A player must not tackle nor tap, push or pull the foot or feet of an opponent jumping for the ball in a lineout or in open play. Sanction: Penalty kick</p>

<http://laws.worldrugby.org/?law=10.4> より

競技規則は危険なタックルを禁止しています。第 10 条不正なプレー4(e)および(i)を復習してみましょう。

ラグビー創世期のタックルはボールキャリアが立ったままでボールごと捕まってプレーできなくなった状態で成立した時代には contact の高さは問題になりませんでしたし collision の強さも不用なものだったので。stiff-arm tackle 即ち腕を stiff (固くして) 打ちつけるようなタックルは禁止され争いの元になる boxing だと批難されました。蛇足ながらリーグラグビーとユニオンラグビーの競技原則によるプレーの目立った違いは一つは激しく当り collision and hustle 相手を地面にたたきのめすようにするタックルであり、二つ目は両チームの多勢が組み合うスクラムがないことで、多人数による collision and hustle による危険を無くし時間の浪費を少なくするためです。

過激なタックルを観衆が歓迎する風潮によりエスカレートし興行化(プロ化)傾向が見られたことはユニオンラグビーにも影響を与えました。日本人独特の低い鋭いタックルを“kamikaze tackle”と称され文字にもなっていますが、それは称賛されているわけではなく特異なもので見られているだけです。外国人に比べて身体の小さい日本人が試合に勝つための活路としては自他共に認められるところです。

次にタックルの強さについて考察しましょう。

日本語	英語
<p>ラグビー憲章</p> <p>ゲームの原則</p> <p>行動</p> <p>フットボールの試合中にボールを最初に拾い上げ走ったと信じられている、かのウィリアム・ウェッブ・エリスの伝説は、ラグビー校でそれが起きたと言われる 1823 年のその日以来、これを否定しようとする数え切れない人々の反論に対抗して強固に生き延びてきた。ラグビーという競技が、スピリットあふれるひとつの挑戦行動にその起源をもっていたに違いないと考えることは、ある意味適切である。</p> <p>普通の観察者が見れば、一見矛盾の固まりのように思われるラグビーゲームの裏に、ゲームを支配する原則を即座に見いだすことは難しい。例えば、ボールを獲得しようとして相手に強烈な身体的圧力をかけていると見られることにはまったく問題はないが、それは故意に、あるいは悪意を持って怪我を引き起こそうとする行為とは全く別なものである。</p> <p>これらはプレーヤーとレフリーが追求していかなければならない境界線であり、自制と規律を融合させ、個人及び集団でそれを明確に線引きする能力が求められ、行動の規範はその能力に依存しているのである。</p>	<p>Playing Charter</p> <p>Principles of the Game</p> <p>CONDUCT</p> <p>The legend of William Webb Ellis, who is credited with first picking up the football and running with it, has doggedly survived the countless revisionist theories since that day at Rugby School in 1823. That the Game should have its origins in an act of spirited defiance is somehow appropriate.</p> <p>At first glance it is difficult to find the guiding principles behind a Game which, to the casual observer, appears to be a mass of contradictions. It is perfectly acceptable, for example, to be seen to be exerting extreme physical pressure on an opponent in an attempt to gain possession of the ball, but not wilfully or maliciously to inflict injury.</p> <p>These are the boundaries within which players and referees must operate and it is the capacity to make this fine distinction, combined with control and discipline, both individual and collective, upon which the code of conduct depends.</p>

日本語	英語
<p>第7条 競技方法</p> <p>PLAYING A MATCH (プレーイング・ア・マッチ)</p> <p>試合はキックオフによって開始される。</p> <p>キックオフの後、オンサイドにあるプレーヤーは、ボールを捕り、ボールを持って走ることができる。</p> <p>ボールを他のプレーヤーに投げ、またはキックすることができる。</p> <p>ボールを他のプレーヤーに与えることができる。</p> <p>相手側のボールキャリアーをタックルし、とらえ、押すことができる。</p> <p>ボールに倒れ込むことができる。</p> <p>スクラム、ラック、モールまたはラインアウトに参加することができる。</p> <p>インゴールにボールをグラウンディングすることができる。</p> <p>ボールキャリアーは、相手に対しハンドオフをすることができる。</p> <p>プレーヤーのすることはすべて、競技規則に従ったものでなければならない。</p>	<p>Law 7 Mode of Play</p> <p>7.1 PLAYING A MATCH</p> <p>A match is started by a kick-off.</p> <p>After the kick-off, any player who is onside may take the ball and run with it.</p> <p>Any player may throw it or kick it.</p> <p>Any player may give the ball to another player.</p> <p>Any player may tackle, hold or push an opponent holding the ball.</p> <p>Any player may fall on the ball.</p> <p>Any player may take part in a scrum, ruck, maul or lineout.</p> <p>Any player may ground the ball in in-goal.</p> <p>A ball carrier may hand-off an opponent.</p> <p>Whatever a player does must be in accordance with the Laws of the Game.</p>

<http://laws.worldrugby.org/?charter=2> <http://laws.worldrugby.org/?law=7> より

健全に戦うための激しさについての認識を高めるためにラグビー憲章と第7条を復習しましょう。

タックル成立の過程は **approach** に始まって接近接触 **contact** し捕える **hold** 押す (倒す) **push** と進みます。「安全」「有効」に達成できるように「身体的かつ技術的に準備する」ことが課題になります。

「安全」については「悪意を持って」の強烈な身体的圧力は問題外として境界線を越えない自制と規律を「明確に線引きする能力が求められている」のです。

「技術の知識の理解」についてはボールを持って動いているプレーヤーとそのプレーヤーを捕まえようと接近しコンタクトする双方の位置関係の理解が基本となります。タックルしようとする人の元の位置と接近の仕方(コース・角度)が問題になります。“A guide for coaches”を始めとして一連の指導書は **front tackle, side tackle, rear tackle** と三つの立場を基本として話を進めています。一番多い普通形である **side tackle** についてはRFU作成の **right tackle** のポスターが単的に教示しています。



<http://nishikawarugbycolumn.web.fc2.com/column/PDF/20120109.pdf> 参照

双方がそれぞれの意図を持って動いているのですから固定的な状態が常に保たれるものではありませんが重要なポイントは確実に実行されなければなりません。

爪先が地面に着いているということは **tackle = dive**（とび込み）ではなく **contact + drive or push**（身体を当て前方へ押して伸ばす）ということを示しています。

hold は相手の身体を両腕で抱えこむことです。その時タックラーの身体がタックルされたプレーヤーの上になるようにして抱えこむことが必須要件です。

双方が正面に対することで時として行うことになる **front tackle** ではタックラーは **contact** した後、**hold** した状態で上向きの状態になり後方へ身体を倒すことにより相手の前進力を利用して倒す（**smother tackle**）こととなります。

走り去ろうとする相手を追いかけて捕まえ倒すのは **rear tackle** です。この場合は後ろから追いついても飛びつく態勢にならなければ捕まえることができませんが走り勝つことが前提条件です。

以上、タックルについて基礎になる基本的なことを列挙しましたがタックルは如何にしてボールを持っている相手を捕まえて止めるかということです。タックルの後ボールの所有権はどちらにあるかが次の課題となります。ラグビーは **equal condition** 平等に公平にボールをとり合い展開して味方の人数が余る所を産み出し前進を図ることによって勝敗を決する競技です。そのためにオープン展開に交わしプレー加えて **equal** でない状態を産み出し相手を交わすことも工夫の一つです。

Rugby is enjoyment 試合に勝つことは楽しいことです。楽しみを求めて試合に勝つために身体的に技術的に準備することに努めることは当然なことです。そしてその目指すところはレベルによってそれぞれ異なりますが、安全であることは第一優先事項です。そのための自制と規律を融合する能力が求められているのです。プレーヤーの勝ちたい気持ちと勝利至上主義が融合しますと自分を見失ってしまい危険を恐れないムードに酔ってしまって後悔しなくてはならないような行動をとってしまうのです。そのような状況の中で正しいタックルは最高のパフォーマンスによりラグビーを最高に楽しむための唯一の方法なのです。

最初に引用しました練習時の“**BETTER RUGBY**”の言葉に加えタックルには決意と集中が欠けては成功しませんし危険でもあります。しかし気迫だけで飛びこむのは危険であり成功も保証されないのです。感動を覚える一発必殺の激しいタックルについては、それは偶然的タックルであるという認識のもと、重要なことはボールを持って走っている相手を捕まえて倒す一発々々の安全な正しいタックルであることを忘れずに自信を持って挑戦しラグビーを楽しむことです。

2016/07/16
西川 義行